

## 障がいのある子の親として ～障害者差別解消法の施行にあたって～

ことばを育てる親の会 稲村 晴美

私の長男には自閉症スペクトラム(アスペルガー症候群)という障がいがあります。自閉傾向が強く、こだわりや、興味に偏りがあり、人との意思疎通が困難です。また、二次障がいとして、強迫性障がいや全般性不安障がいもあります。

しかし、外見上は障がいがあるように見えません。そのため成長段階では、障がいのない人と同じことができると期待され、できないと怠けているように思われたり、人と違うことで困った人、迷惑な人と思われることがありました。あるいは障がいがあることで、やる前からできないと思われたり、失敗しそうなときは失敗させないように先回りして支援されたりもしました。

そんな長男ですが、彼なりにコツコツと誠実に何事にも取り組み、大学卒業後にシステムエンジニアとして松江市内のIT企業の契約社員に採用されました。勤務先の会社は長男の障がいについて理解があり、彼のベストパフォーマンスを引き出すためとして数々の配慮をいただきました。彼はそこではお荷物ではなく、働き手とし

て、戦力の一人として大事にされていることがわかり、こんなにうれしいことはありませんでした。

4月から障がいのある人もない人もお互いを尊重し共に生きる社会を目指して、障害者差別解消法が施行されます。法律ができたからといって、世の中がすぐに変わるとは思いませんが、ゆっくりと、少しずつでも変わってほしいと思います。

障がいがあると、ついついその人ができることまで取り上げて支援してしまいがちです。一人でできない部分は一部分です。本人の望むことだけを支援してもらえれば充分です。

また、長男のように外見からはわかりにくい障がいをかかえた人が周りにいるかもしれないことを意識してほしいと思います。

今、長男は会社に貢献できるように、張り切って前向きに仕事をしています。私は長男を誇りに思います。そして、長男には今後も自分の人生の主役として生きてほしいなと親は願うばかりです。



### ●稲村さんのお長男の勤務先の方にお話を伺いました

稲村さんには障がいがありますが、3ヶ月間のトライアル雇用期間を通して、システムエンジニアの仕事ができると判断し、契約社員として採用しました。

当社では、新卒の新入社員がスムーズに仕事に慣れることができるよう、先輩社員が「トレーナー」となり指導や助言をするOJT制度があります。彼は新卒採用ではありませんが、このOJT制度を適用し、障がいに理解のある先輩社員をトレーナーとして選びました。また、彼の特性と一緒に仕事をする仲間にも理解していただくことが重要であると考えましたので、事前に彼の承諾を得てから、「勤務中に休憩(仮眠)を取ることが彼にとっては1日勤務をする上で必要であること」、「仕事の指示は彼が理解できるように丁寧に話す必要があること」など、配慮すべき点について説明し理解を求めました。

彼が体調を崩し気味のことがあり、一度ご両親とお会いする機会がありましたが、彼の特性や近況についてお互い情報共有できたことがよかったです。当社では、社員が気持ちよく元気に長く働いてもらうことが大事だと考えています。

# しまね人権フェスティバル2015

同時開催 平成27年度 人権・同和問題を考える県民のつどい

10月25日(日)、出雲市の平田文化館で「しまね人権フェスティバル2015」を開催しました。26団体からブースの出展があり、ワークショップや啓発パネルの展示などが行われました。ステージでは、一日人権擁護委員の委嘱式や、雲州ひらた太鼓、平田中学校吹奏楽部、社会福祉法人ぼてとはうすなど地元の方々にも多数出演していただきました。また、平田高校JRC部のみなさんには、ボランティアとして協力していただきました。

同時開催の「人権・同和問題を考える県民のつどい」ではジャーナリストの馬場周一郎さんに「何が進み、何が残っているのか～同和対策審議会答申50年の成果と課題」と題して、同和対策審議会答申から50年を経過した現在、答申とそれに続く同和対策事業特別措置法の施行がもたらした成果とこれからの課題について講演していただきました。

講演を聴かれたみなさんからは、わかりやすい話で同和問題への理解を深めることができた、同和問題はみんなが認識し、みんなで解決して行くべき問題である、講師の「一人の百歩より百人の一步」という言葉が印象に残ったなどの感想が寄せられました。

当日は約900名の方の来場があり、身近な人権問題について、学び・気づき・考える場となりました。



一日人権擁護委員の  
常松正巳さん(右)と山根万理奈さん(左)  
中央はKENあゆみちゃん

講演/馬場周一郎さん



平田中学校吹奏楽部のみなさん



ワークショップの様子

雲州ひらた太鼓

平成  
27年度

## 人権教育・啓発功労者 知事感謝状の贈呈

島根県では、人権教育や人権啓発に関して特に顕著な功績のあった個人及び団体に対して知事感謝状を贈呈しています。

平成27年度は、福原孝浩さん(益田市)と「伝承の技を紡ぐ」竹タックの会(江津市)に、しまね人権フェスティバル2015の会場において、新田英夫環境生活部長から感謝状を贈りました。

贈呈式の後、受賞者の方にこれまで取り組んでこられた活動について紹介していただきました。

### \*知事感謝状を贈られた方々の主な功績\*

個人 福原 孝浩さん  
益田市 ●活動年数/20年

長年にわたり、在住外国人との交流事業、ハンセン病問題に関する啓発・交流などの活動、国籍にかかわらず共生できる多文化共生の実現に関する事業等に関わり、人権意識の高揚・啓発の推進に取り組んでいる。

団体 「伝承の技を紡ぐ」竹タックの会  
江津市 ●活動年数/8年

地域の伝統産業である竹細工・和太鼓づくり、江津市沖で沈没したロシア船乗組員を住民が救助した史実の伝承など、地域の特性を生かした人権啓発に関する調査研究・技術伝承・保存・記録・展示、講演、文化交流等を行っている。



写真左より  
福原孝浩さん、  
新田英夫環境生活部長、  
「伝承の技を紡ぐ」  
竹タックの会  
(五十嵐百合子さん)



〈写真上〉  
「伝承の技を紡ぐ」竹タックの会  
(二又茂樹さん)による紙芝居「イ  
ルティッシュ号と和木の人々」の  
披露  
〈写真左〉  
福原孝浩さんによるハンセン病  
問題についての講演